

## 広域バックアップ専門部会の取組みについて

令和7年3月3日

北陸地域国際物流戦略チーム 広域バックアップ専門部会

座長 柳井 雅也

## 【目次】

1. 令和7年2月7日(金)に開催した  
令和6年度第2回広域バックアップ専門部会の開催報告
2. 報告内容
  - (1) 令和6年度の代替輸送訓練・ワークショップの概要
  - (2) 令和6年度の代替輸送訓練・ワークショップの結果
  - (3) 今後の展開に向けて

1. 令和7年2月7日（金）に開催した  
令和6年度第2回広域バックアップ専門部会の開催報告

# 北陸地域国際物流戦略チーム 令和6年度 第2回広域バックアップ専門部会

- 北陸地域国際物流戦略チーム(事務局:北陸地方整備局、北陸信越運輸局)は、産業が集中する太平洋側で大規模災害が発生した際における我が国の物流機能の維持等を検討するため、令和7年2月7日(金)に令和6年度第2回広域バックアップ専門部会を開催した。
- 専門部会では、「外貿コンテナ代替輸送訓練・ワークショップ」および「内航フェリー・RORO船を活用した代替輸送訓練・ワークショップ」の結果概要や今後の方針案を事務局から提示するとともに、中越運送株式会社による国内輸送に関する事例紹介を行った。
- 令和7年度は、企業における物流BCP作成支援及び物流BCPの重要性認知向上(PR)、代替輸送訓練の継続的な実施に取り組んでいくこととした。
- 委員からは、「素晴らしい訓練をされているのに参加者が少ないのはもったいない」、「物流BCPは経営トップがどれほど理解しているかと物流の複線化が平時からできているかが重要である」等、積極的に意見が出された。

## 令和6年度 第2回広域バックアップ専門部会

日 時:令和7年2月7日(金) 15:00~17:00  
場 所:朱鷺メッセ新潟コンベンションセンター302会議室(対面・オンライン会議併用形式)  
出席者:30名(会場15名、WEB15名)

- 概 要
- ①令和6年度の代替輸送訓練・ワークショップの概要
  - ②令和6年度の代替輸送訓練・ワークショップの結果
  - ③今後の展開に向けて
  - ④国内輸送に関する事例紹介(2024年4月以降の物流の変化について(中越運送株式会社))
  - ⑤意見交換・質疑



会場全体



柳井座長による挨拶



中越運送(株)による発表



意見交換の様子

## 2. 報告内容 (1) 令和6年度の代替輸送訓練・ワークショップの概要

# 1 代替輸送訓練・ワークショップの振り返り

## (1) 代替輸送訓練・ワークショップの経緯

- 東日本大震災時において、日本海側の港湾が太平洋側のバックアップ機能を果たしたことから、北陸地域の港湾が果たすべき役割や方策を検討することを目的として、「広域バックアップ専門部会」を平成24年12月に設置。
- 同専門部会では「代替輸送モデルケース」、「代替輸送のための体制・役割の検討」、「代替輸送訓練の実施」及び「北陸地域の港湾物流情報を一元化するポータルサイトの開設」など、代替輸送を円滑に行うために必要な方策を検討。
- 平成25年度から継続して代替輸送訓練を実施するとともに、代替輸送手引書の策定及び改訂を実施。
- 「太平洋側大規模災害時における北陸地域港湾による代替輸送基本行動計画」を策定（H29.1.13公表）。

## (2) 代替輸送訓練・ワークショップの目的

- 荷主企業及び物流の供給者に代替輸送の必要性とBCPの記載内容や訓練参加の有効性を確認するとともに、既存ルートが使用できない場合において事業の継続を確実にするため、代替輸送訓練・ワークショップを実施する。

## (3) 代替輸送訓練・ワークショップの実施状況

- 平成25年度から令和元年度までは対面方式で首都直下地震及び南海トラフ巨大地震に対応した代替輸送訓練・ワークショップを実施した。
- 令和2年度からは新型コロナウイルス感染拡大を考慮して、オンライン形式による代替輸送訓練・ワークショップを実施していたが、今年度は4年ぶりに対面形式による代替輸送訓練・ワークショップを実施した。
- 今年度の代替輸送訓練・ワークショップでは、“物流BCPの重要性”に力点を置き、代替輸送に関するロールプレイング訓練に加えて、ワークショップ形式で大規模災害や物流2024年問題をはじめとした様々な事象への対応について検討・議論する機会を設けた。

## 2 令和6年度の代替輸送訓練・ワークショップ開催概要

今年度の代替輸送訓練・ワークショップは令和6年11月20日、21日の2日間開催し、計35名が参加した。

	大規模地震に対応した日本海側港湾への外貿コンテナ代替輸送訓練・ワークショップ	大規模災害・物流2024年問題等に対応した内航フェリー・RORO船を活用した日本海側港湾への代替輸送訓練・ワークショップ
開催日時	令和6年11月20日(水)13:00～17:00	令和6年11月21日(木)13:00～17:00
場所	大宮ソニックシティ 第1展示場 (埼玉県さいたま市大宮区桜木町 1-7-5)	
参加人数	19名 【業種内訳】 物流・倉庫業:12名、製造業:3名、 官公庁:2名、商社:1名、サービス業:1名	16名 【業種内訳】 物流・倉庫業:6名、サービス業:3名、 官公庁:3名、製造業:2名、小売・卸売業:2名
グループ構成	5名で1グループとし、 4グループを設置	5名～6名で1グループとし、 3グループを設置
訓練の形式	対面式机上訓練(ロールプレイング訓練、ワークショップ)	

以降、以下のとおり略称する。

■大規模地震に対応した日本海側港湾への外貿コンテナ代替輸送訓練・ワークショップ

⇒外貿代替輸送訓練・ワークショップ

■大規模災害・物流2024年問題等に対応した内航フェリー・RORO船を活用した日本海側港湾への代替輸送訓練・ワークショップ

⇒内航代替輸送訓練・ワークショップ

# 2.1 外貿代替輸送訓練・ワークショップの実施内容

外貿代替輸送訓練・ワークショップ	
プログラム	13:00 ~ 13:05 開会挨拶 13:05 ~ 13:20 概要説明
	<b>■第一部 代替輸送訓練</b> 13:20 ~ 14:55 代替輸送訓練に関する ロールプレイング訓練
	<b>■第二部 ワークショップ</b> 14:55 ~ 15:50 ① 代替輸送手引書についての討議 15:50 ~ 16:45 ② 物流BCPの方向性についての討議 16:45 ~ 16:50 全体講評 16:50 ~ 16:55 内閣府からのご案内 16:55 ~ 17:00 閉会挨拶
	<b>共催</b> : 内閣府、新潟県、富山県、石川県、福井県、長野県 <b>後援</b> : 京都府、埼玉県、岐阜商工会議所、東京商工会議所、名古屋商工会議所、一般社団法人埼玉県経営者協会、公益財団法人埼玉県産業振興公社、北陸経済連合会、新潟県商工会議所連合会、長野県商工会議所連合会、日本経済団体連合会、日本物流団体連合会（順不同）
	<b>共催</b> <b>後援</b> <b>団体</b>

## ■第一部 代替輸送訓練

代替輸送訓練に関するロールプレイング訓練

■ 首都圏の荷主企業・物流サプライヤの通常ルートが大規模地震の発生によって使用不能となったことを想定し、北陸地域港湾への切り替えを実施する。

太平洋側で発生した大規模地震によって通常ルートが使用不能に!!

代替輸送ルートの確保を!

日本海側港湾を使った代替輸送を実施

想定：工作機械をベトナムへ輸出

Copyright © 2024 北陸経済連合会 All Rights Reserved.

## ■第二部 ワークショップ

### ワークショップ① 代替輸送手引書についての討議

1. 事前に考えてきた手引書の改善すべきポイントをごグループ内で共有してください。 5分
2. 共有された手引書の改善すべきポイントの中から、グループとして討議するものを1つを選んでください。 5分
3. 選んだポイントについて、どのように改善すればよいか話し合ってください。 20分

- 事務局からも討議テーマをいくつか用意しています。必要に応じてサポートが持っている討議テーマを記載した紙を受け取り、そのテーマで討議いただくことが可能です。
- 記録担当の方には討議の中で出た意見をメモしていただき、討議した内容について最後にご発表いただきます。

### ワークショップ② 物流BCPの方向性について

- 各グループ内で、下記の点について討議してください。

1. 企業BCPにおける物流/サプライチェーンの継続について感じている課題とその解決策 10分
2. 今後、物流に特化したBCPではどのような要素を備えているべきか 15分

- 討議を開始する際に、差し支えない範囲で「自社では物流に特化したBCPをすでに策定しているか/していないか」についてグループ内で共有してください。
- 討議の中には2024年問題と物流におけるBCPについてもまとめてください。
- 発表担当の方は討議の内容についてご発表ください

# 2.2 内航代替輸送訓練・ワークショップの実施内容

## 内航代替輸送訓練・ワークショップ

13:00 ~ 13:05 開会挨拶  
13:05 ~ 13:15 概要説明

### ■第一部 導入 ワークショップ

13:15 ~ 13:05 意見交換 各社の国内輸送に関する  
物流BCPの現状認識

### ■第二部 代替輸送訓練

13:55 ~ 15:25 模擬会社を想定した事業継続対応の  
ロールプレイング訓練

### ■第三部 振り返りワークショップ

15:25 ~ 16:45 物流BCPの方向性についての討議  
① 豪雨や台風の場合はどのような違いがあるか  
② 物流2024年問題を踏まえたBCPのあり方について  
③ 企業BCPに加えるべきさらなる視点  
16:45 ~ 16:50 全体講評  
16:50 ~ 16:55 内閣府からのご案内  
16:55 ~ 17:00 閉会挨拶

プログラム

共催・後援団体

■共催:内閣府、新潟県、富山県、石川県、福井県、長野県  
■後援:京都府、埼玉県、岐阜商工会議所、東京商工会議所、名古屋商工会議所、(一社)埼玉県経営者協会、(公財)埼玉県産業振興公社、北陸経済連合会、新潟県商工会議所連合会、長野県商工会議所連合会、近海郵船(株)、新日本海フェリー(株)、日本経済団体連合会、日本物流団体連合会(順不同)

## ■第一部 導入 ワークショップ

意見交換：各社の国内輸送に関するBCPの現状認識

■ 国内輸送におけるBCPの対策の内容及り方について討議していただきます。

⚠️ タイムキーパーの方は、討議リーダーをサポートして時間管理をしてください。

- 個人ワークの①  
まず最初に、BCPへの国内輸送に関する記載状況(自社/他社)について付箋に記載してください。
- 個人ワークの②  
国内輸送におけるBCPの対策の内容及り方について、課題であると感じていることをできるだけたくさん挙げて、黄色の付箋( )1枚につき1つ記載してください。
- ③  
③で話し始める際にお名前(姓のみで結構です)と①で記載した「自社の国内輸送に関する記載状況」について紹介してから、②で付箋に書いた課題を読み上げながら横並びに貼ってください。  
④ 企業目録に発表する人は類似の課題をまとめて貼ってください。

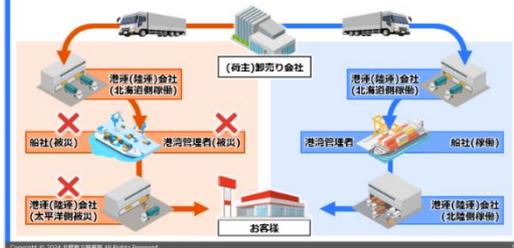
討議に差し支わりがないよう、会社名は伏せてお話しください。

## ■第二部 代替輸送訓練

通常の国内輸送ルート



想定事業：北海道の産物を東京・栃木・群馬へ国内輸送



## ■第三部 振り返り ワークショップ

意見交換①

豪雨や台風の場合はどのような違いがあるか

- 各グループ内で、下記の点について15分で話し合ってください。
- 発表に備えて記録用紙を使って討議内容を記録してください。

- (1) 先ほどは大規模地震が発生した場合の対応について検討したが、発生した事象が豪雨や台風である場合は、対応の内容に大規模地震とどのような違いがあるか
- (2) これまでにどのような対応をしてきたか、どのような課題があり、どのように解決を図ったか(見聞きした他社の事例でもよい)

## 2. 報告内容 (2) 令和6年度の代替輸送訓練・ワークショップの結果

# 1 アンケート結果（外資）

## ◆全体の感想

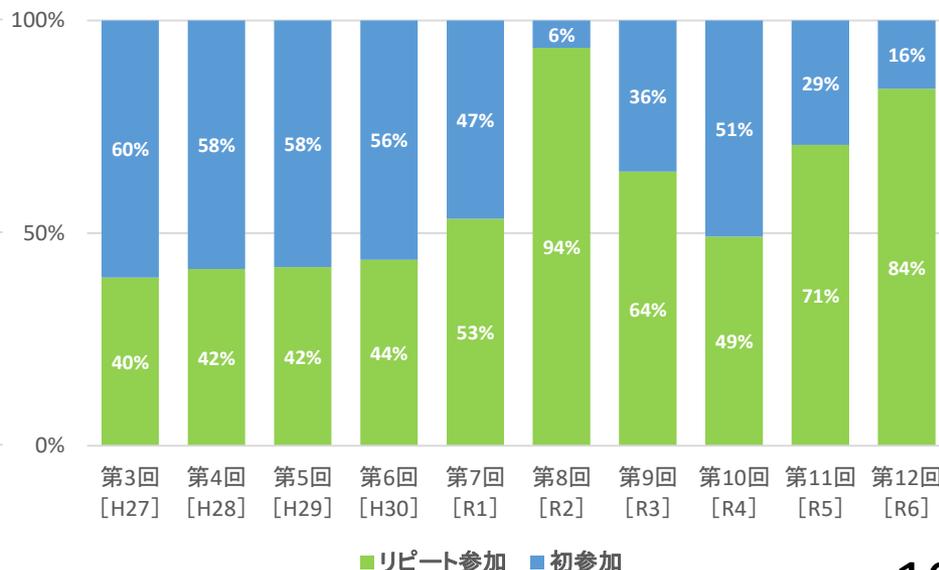
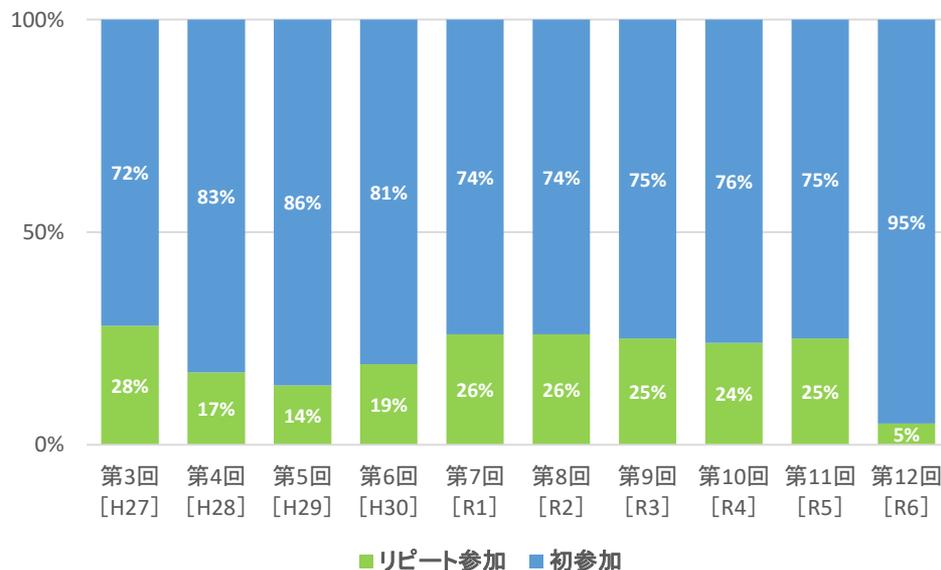
### ※参加リピート率の推移

- Web方式から対面方式に変わったこともあり、今年度の訓練リピート参加率は5%だった。
- 一方、企業・団体別の訓練へのリピート参加率は、今年度は84%だった。令和元年以降半数以上の企業・団体がリピートしている。
- 企業において訓練へ参加することの有用性が広まっていると考えられる。

①参加者の訓練への参加リピート率

②企業・団体別の訓練への参加リピート率

※訓練参加者の所属企業・団体が過去の訓練に参加がある場合にリピート参加とした。  
（企業数で算出、企業の名称変更等は考慮せず）



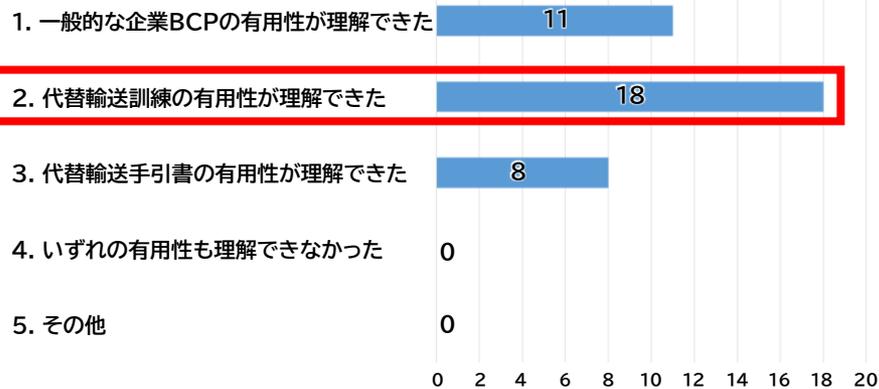
# 1 アンケート結果（外資）

## ◆全体の感想

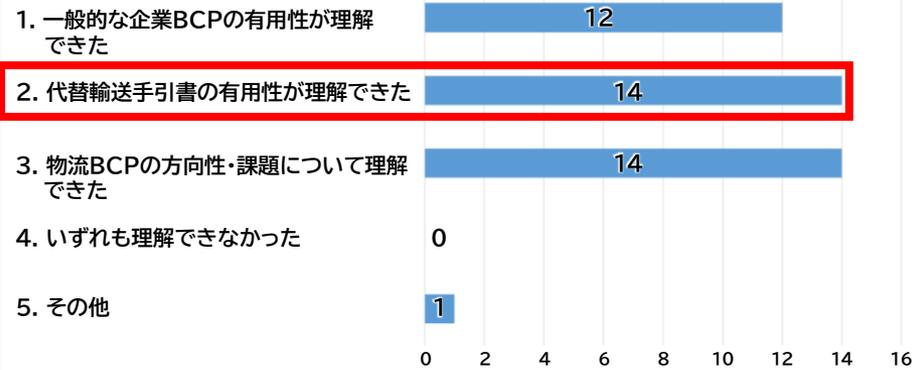
(2) 代替輸送訓練、(3) ワークショップについてどのように思われましたか。（複数回答）

- 多くの参加者から代替輸送訓練や代替輸送手引書等の有用性が理解できたという回答が得られた。

訓練を通した理解



ワークショップを通した理解



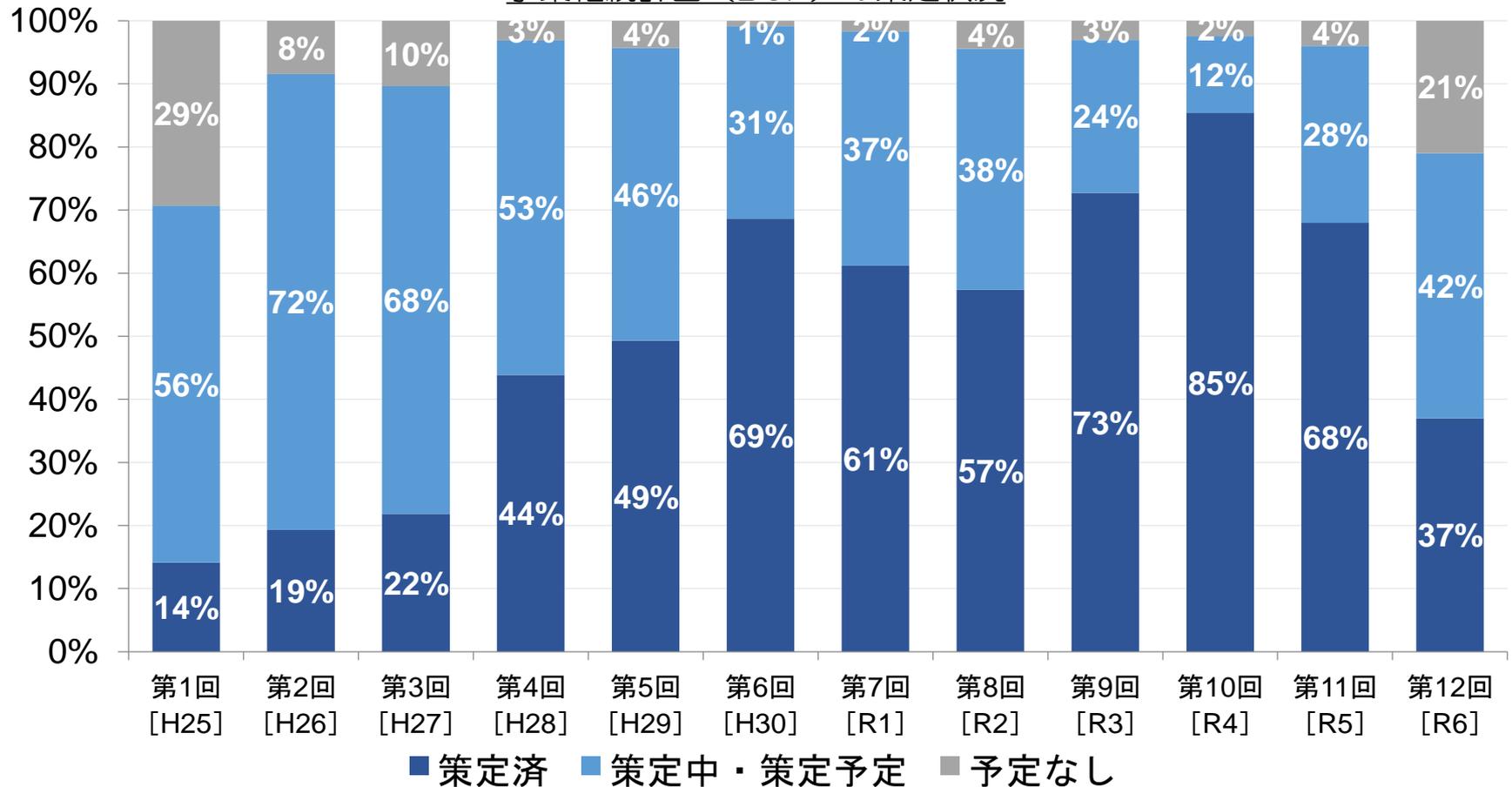
# 1 アンケート結果（外資）

## ◆BCPに関して

### ※事業継続計画（BCP）の策定状況の推移

- 事業継続計画（BCP）を策定済みの参加者は、今年度は37%であった。
- 今年度、策定済みの参加者が少なかった要因として、新規参加者が多かったため、BCPの策定状況について把握できていなかった可能性が考えられる。

事業継続計画（BCP）の策定状況

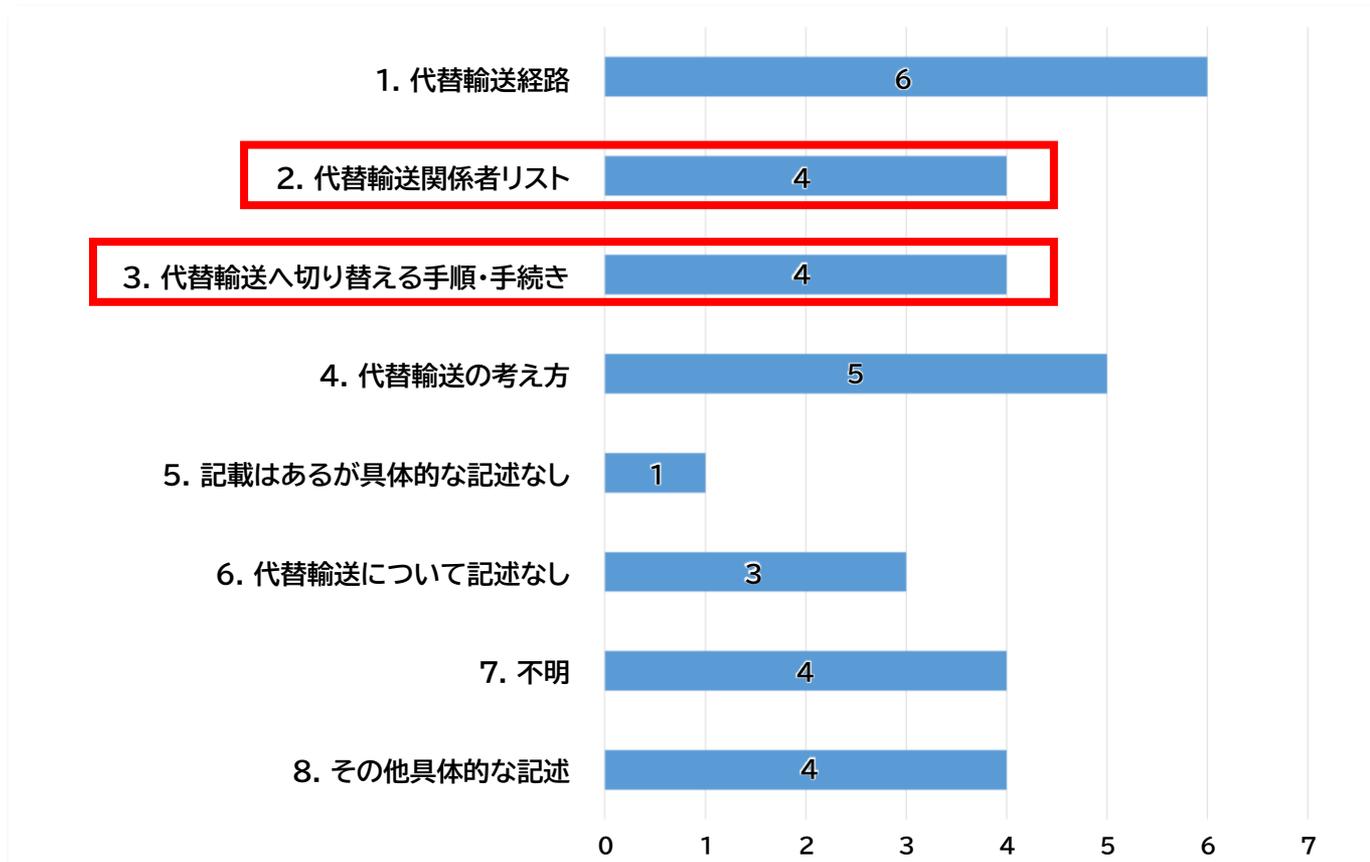


# 1 アンケート結果（外貿）

## ◆BCPに関して

(5) 貴社BCPに記載されている代替輸送の内容について教えてください。（複数回答）

- 代替輸送に関してBCPに記載がある一方で、「関係者リスト」や「手順・手続き」等については、記載内容が若干手薄になっている傾向が伺える。

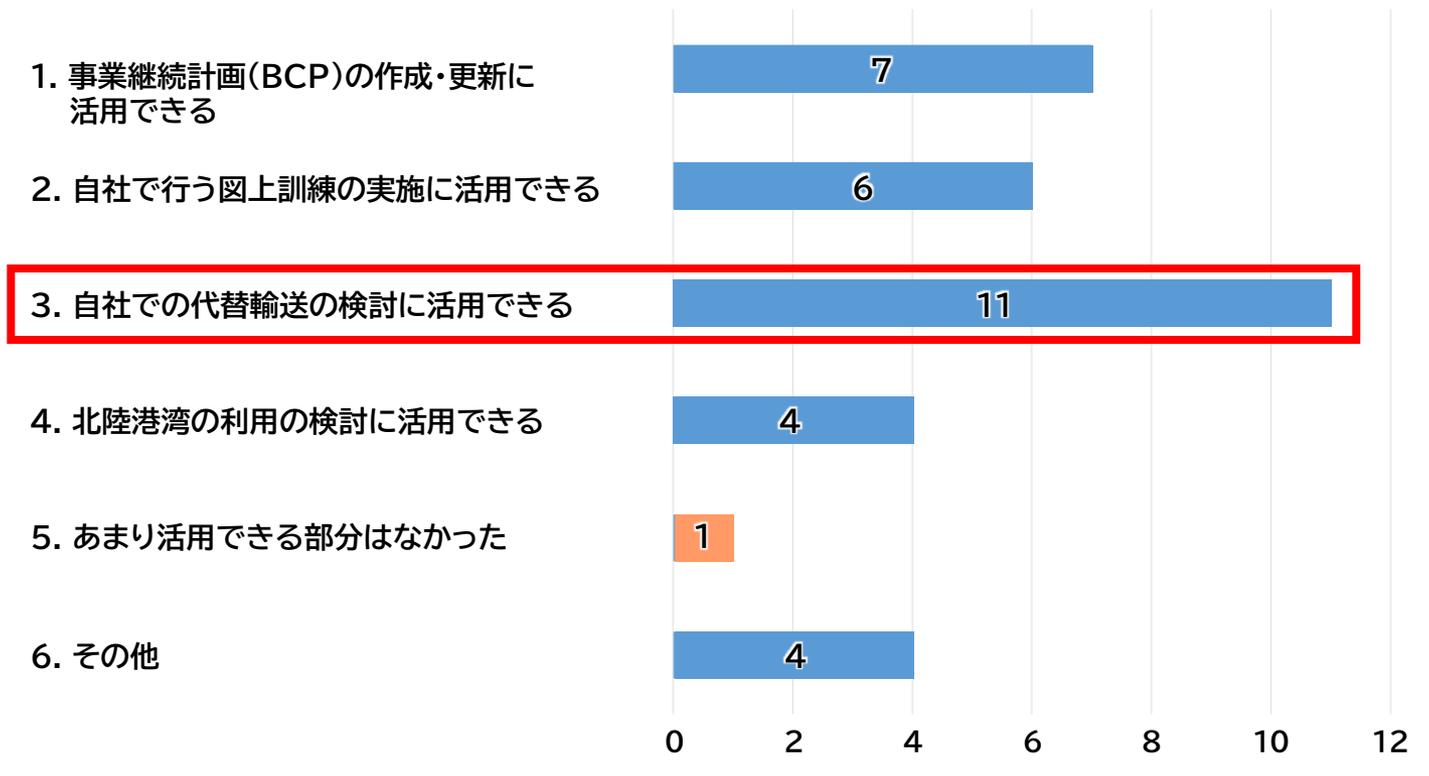


# 1 アンケート結果（外貿）

## ◆BCPに関して

(6) 今回の代替輸送訓練・ワークショップの内容は、貴社の事業継続計画（BCP）に活用できそうですか。（複数回答）

●多くの参加者から、訓練・ワークショップの内容について、「自社での代替輸送の検討に活用できる」という回答が得られた。

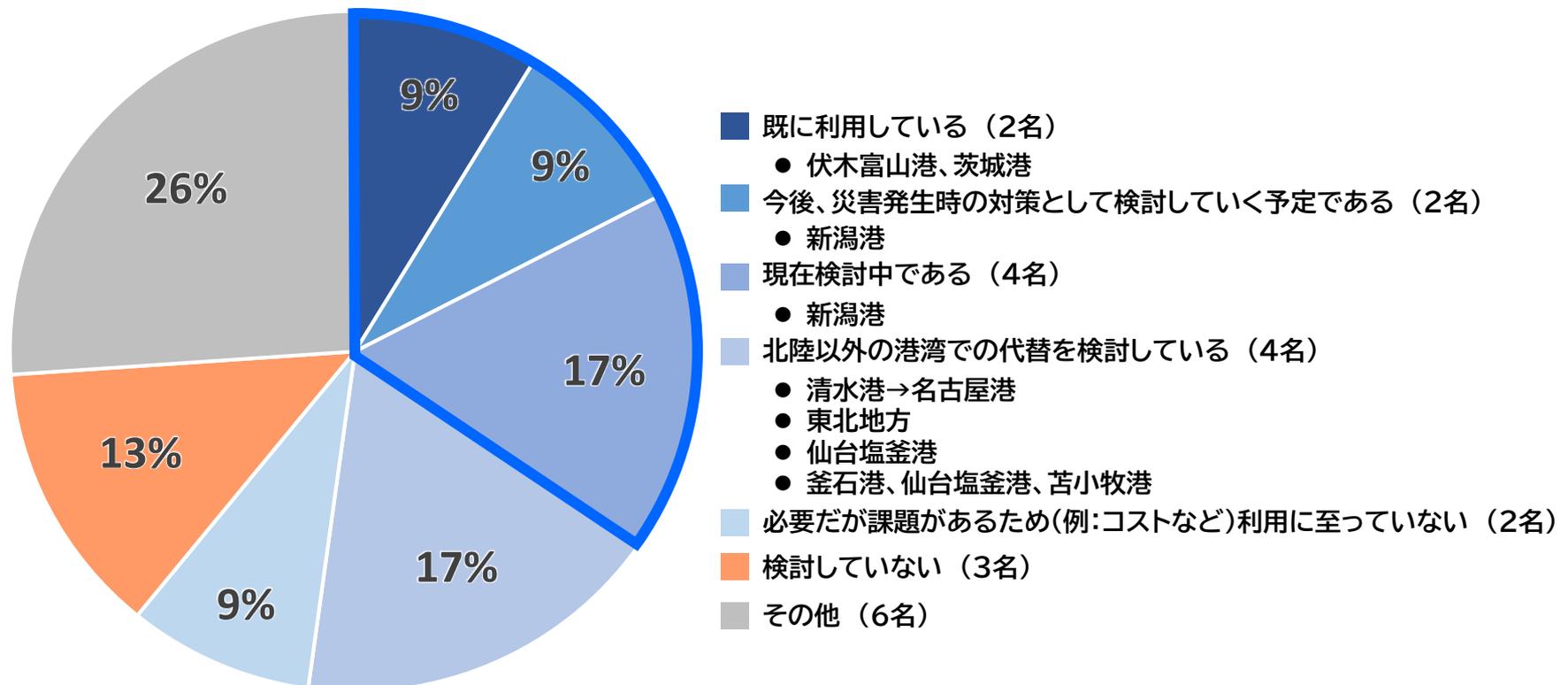


# 1 アンケート結果（外貿）

## ◆代替輸送に関して

(7) 災害発生時に備えて、北陸の港湾を利用することを想定していますか。（複数回答）

- 35%の企業が北陸港湾を既に利用または検討している状況である。
- 一方、13%の企業は検討していない状況である。

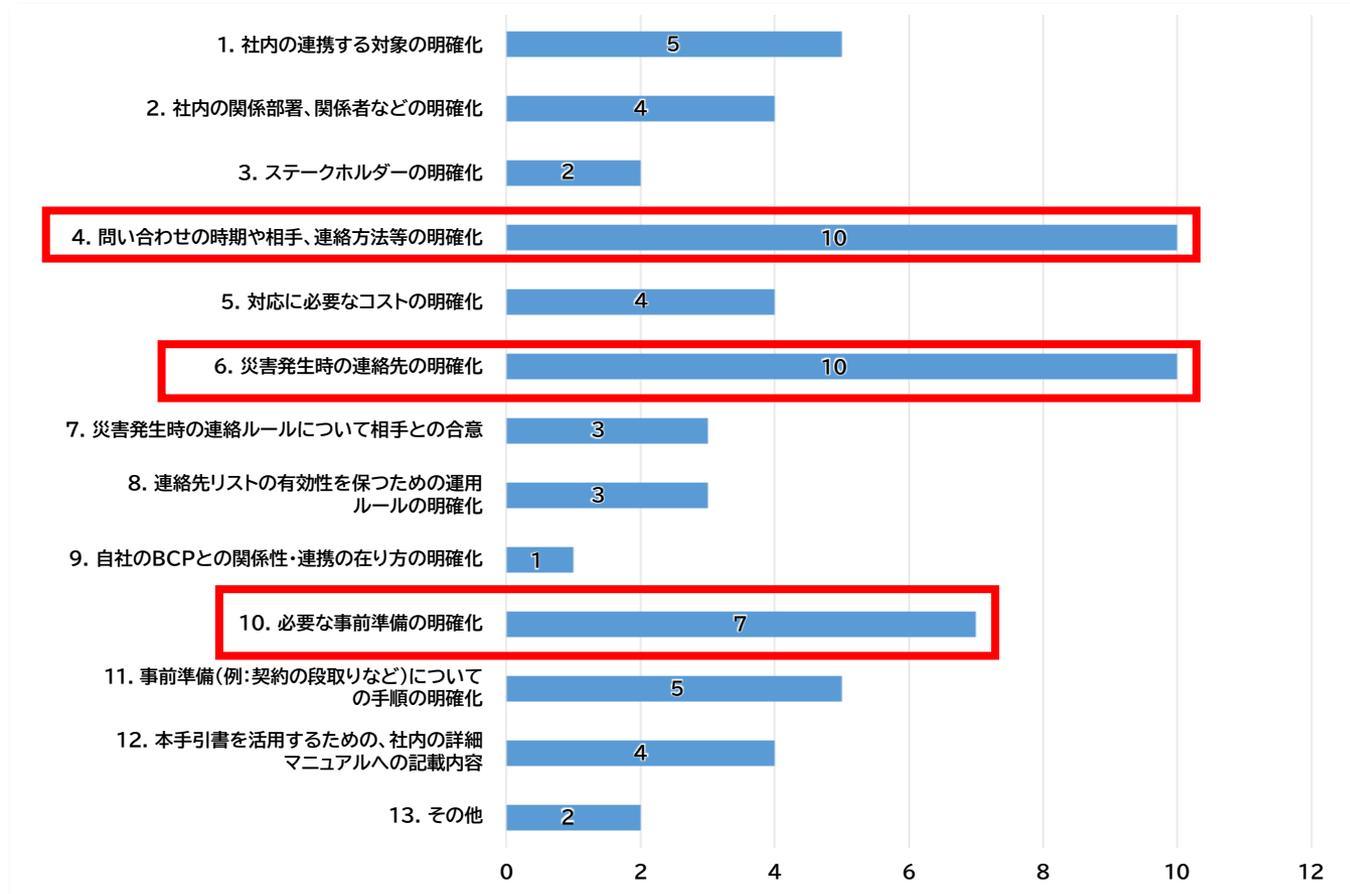


# 1 アンケート結果（外資）

## ◆代替輸送に関して

(8) 被災時に事業継続のため代替輸送を行うことを想定した際に、本手引書に期待する要素があれば教えてください。（複数回答）

- 災害発生時の連絡先や連絡方法の明確化、必要な事前準備の明確化等に関する回答が多かった。



# 1 アンケート結果（外資）

## ◆今後に関して

(9) 今回の訓練・ワークショップを受けて、訓練の運営方法および次年度以降の訓練テーマ等についてご提案や改善点、その他ご感想がありましたらご記載ください。

- 訓練・ワークショップの実施方針の変更に関する意見はなかったが、今後、参加者、参加企業の拡大を図る必要があるといった回答も得られた。

### 提案・改善点・感想

#### ●改善点

- 1 物流業界からの参加者が多かったように見受けられるため、荷主企業側の参加者がもっと必要と考えます。
- 2 ロールプレイングで具体的にルートを決定していくのか、手順を確認し合うのかがわからず、はじめに説明をいただきましたかったです。

#### ●感想

- 3 フェイクニュースに惑わされないようにするなど、情報の正しい取り方からスタートしてもよいと思いました。
- 4 実践的な訓練で非常に有意義でした。
- 5 弊社ではこういった代替案がベストか？手引書を参考にして独自で改善していきたいです。
- 6 いろいろな業種の方のご意見を聞くことができ、有意義な訓練となりました。
- 7 一企業でやれることには限界がありますので、どこまでBCPとして取り組んでいくべきなのかは大きな課題として感じています。
- 8 事前/平常時から代替輸送について準備しておくことで、有事の際に迅速な初動対応ができるとわかりました。

# 1 討議結果（外貿）

## (2) ワークショップ② 物流BCPの方向性について

### 1. 企業BCPにおける物流/サプライチェーンの継続について感じている課題とその解決策

- サプライチェーンの継続については、コスト、事前準備、物流2024年問題等に関する課題に対応すべきというコメントがあった。

No.	課題と解決策	
●コストに関する課題		
1	【課題】	BCP対応時に料金が多くかかる場合、対応が継続すると会社の経営に負担がかかる。
	【解決策】	国や自治体が支援する方策を策定する。
2	【課題】	自社だけでは完結しない。平時からコストをかけることはできない。
	【解決策】	企業グループ、地域、同業などでBCPを作成する。物流センター等で共同配送する。
●事前準備に関する課題		
3	【課題】	サプライチェーンの継続について、事前の準備が不足している。
	【解決策】	非常時になる前に代替手段を検討、代替港を平常時から使って経験値を積み、代替手段をとった場合の流れや必要な手続きを把握しておく。
●物流2024年問題に関する課題		
4	【課題】	BCPを考えるときにも物流2024年問題を考慮すべき。
	【解決策】	配送の際に他社と混載して積載率を上げていく。共同配送等を平常時から仕組みとして取り入れる。

# 1 討議結果（外貿）

## (2) ワークショップ② 物流BCPの方向性について

2. 今後、物流に特化したBCPではどのような要素を備えているべきか

- コストや対応手段について、多くの意見が挙げられた。

No.	備えるべき要素
●コスト	
1	非常時において、通常のリードタイムや通常のコストでは運べないことを経営陣に理解してもらう機会を作る。
2	非常時に貨物が運べなかった場合について社内で話し、平常時にBCPにコストをかけようという意識を持つ。
●対応手段	
3	大前提としてBCP対応は考えるが、想定外の事象の発生に備えて、普段から臨機応変に対応できるように考えておく。
4	企業ごとにビジネスモデルが違うので、それぞれの企業で通常時から考える。
5	例えば、車の部品を作っている工場のうち、ある工場が被災して部品が作れなくなったときに、他の部品の工場は稼働できるがいったん停止させて車を生産するルートを止めるということ、普段から考えておき、いざというときに実行できるようにしておく。
6	「通れた道マップ」などを使って道路状況について情報収集する。
7	洪水、地震などさまざまな災害に対応できるようなBCPを策定する。
8	復旧のための手順書を策定し、平時に戻すまでの手順を定める。
9	複数のルートを持ち、「プランB」を持ちつつ、だめならプランC、Dが選べる準備をする。

# 1 外貨代替輸送訓練・ワークショップに関する考察

## (1) 外貨代替輸送訓練・ワークショップのアンケート結果と討議結果に基づく考察

### ① アンケートを通して抽出された課題

- 参加者の所属先のBCPについて、代替輸送に関して記載があっても、「関係者リスト」や「手順・手続き」等についての記載内容が若干手薄 (P13)
- BCPへの記載内容の漏れを防ぐために、BCP作成時に参考となる資料の作成 (P16)
- 本訓練の有用性を踏まえた継続的な取組 (P10、11、14、17)

### ② 討議を通して抽出された物流における課題

- BCP対応時に必要なコスト (P18、19)
- 事前準備、物流2024年問題に関する課題 (P18)

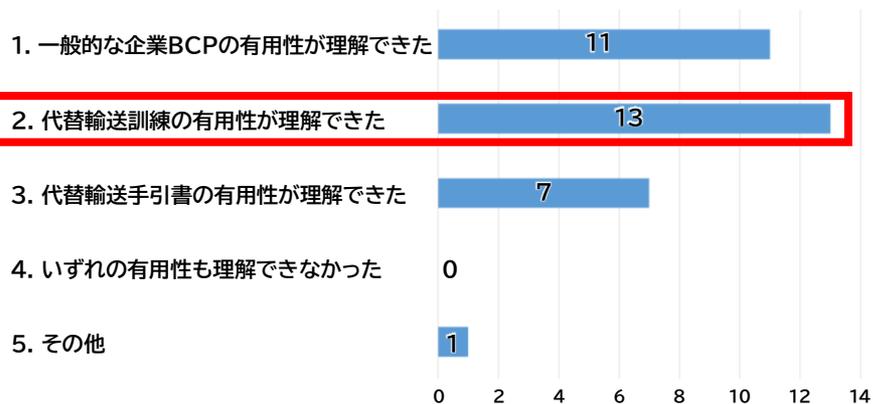
## 2 アンケート結果（内航）

### ◆全体の感想

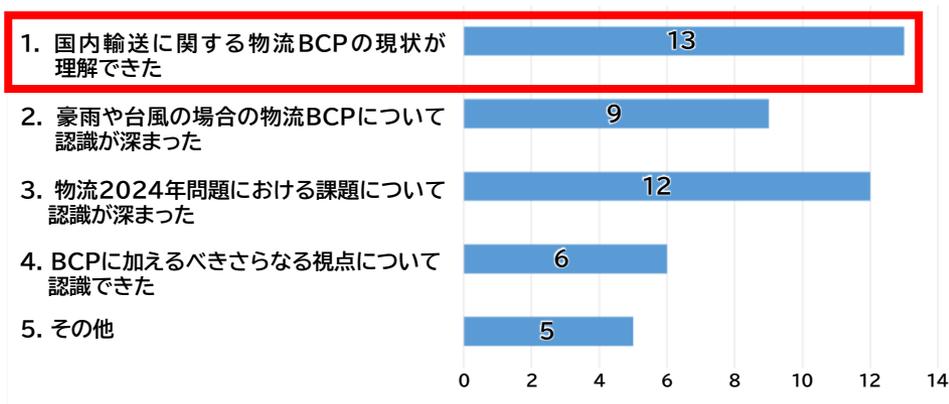
(1) 代替輸送訓練、(2) ワークショップについてどのように思われましたか。（複数回答）

- 多くの参加者から「代替輸送訓練の有用性」や「国内輸送に関する物流BCPの現状が理解できた」という回答が得られた。

訓練を通じた理解



ワークショップを通じた理解

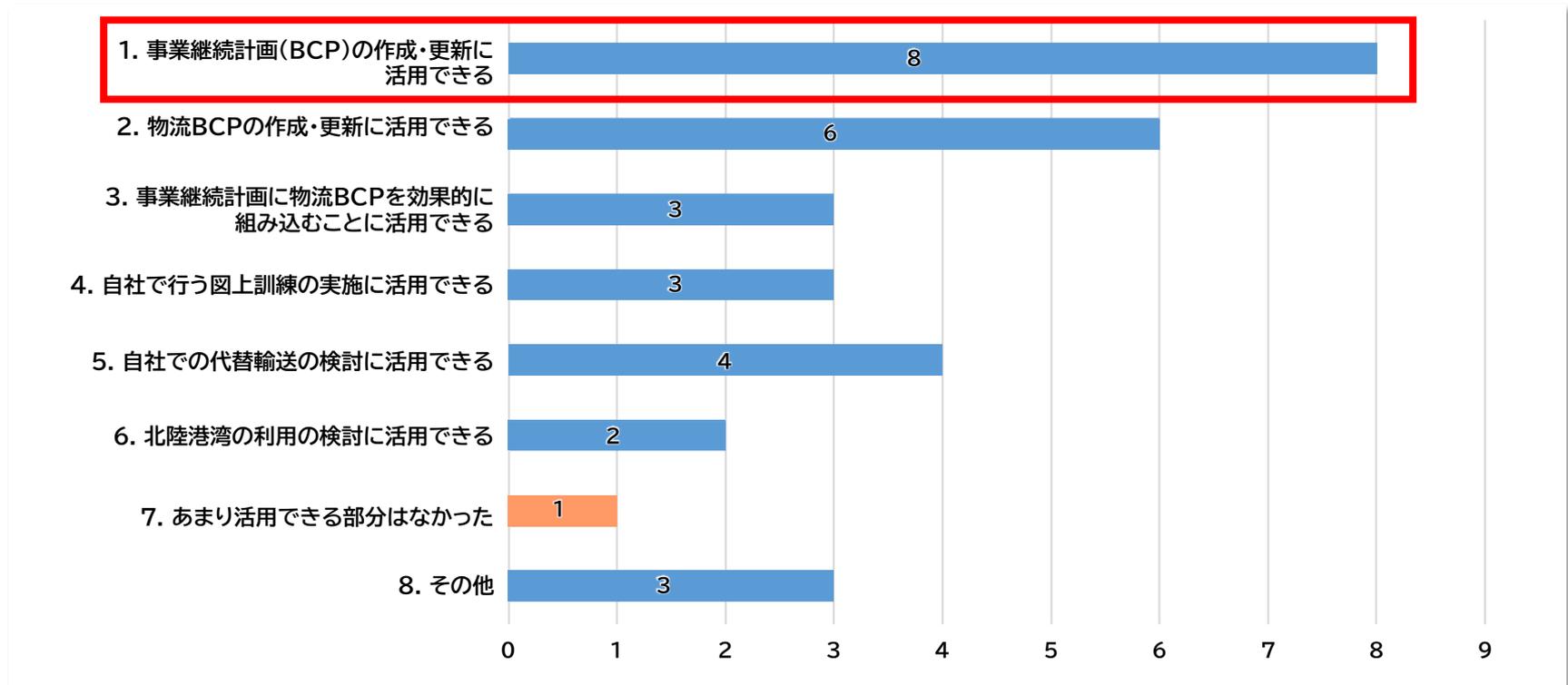


## 2 アンケート結果（内航）

### ◆代替輸送に関して

(6) 今回のワークショップの内容は、貴社の事業継続計画（BCP）に活用できそうですか。  
(複数回答)

- 多くの参加者から、訓練・ワークショップの内容について、「自社でのBCP作成・更新に活用できる」という回答が得られた。

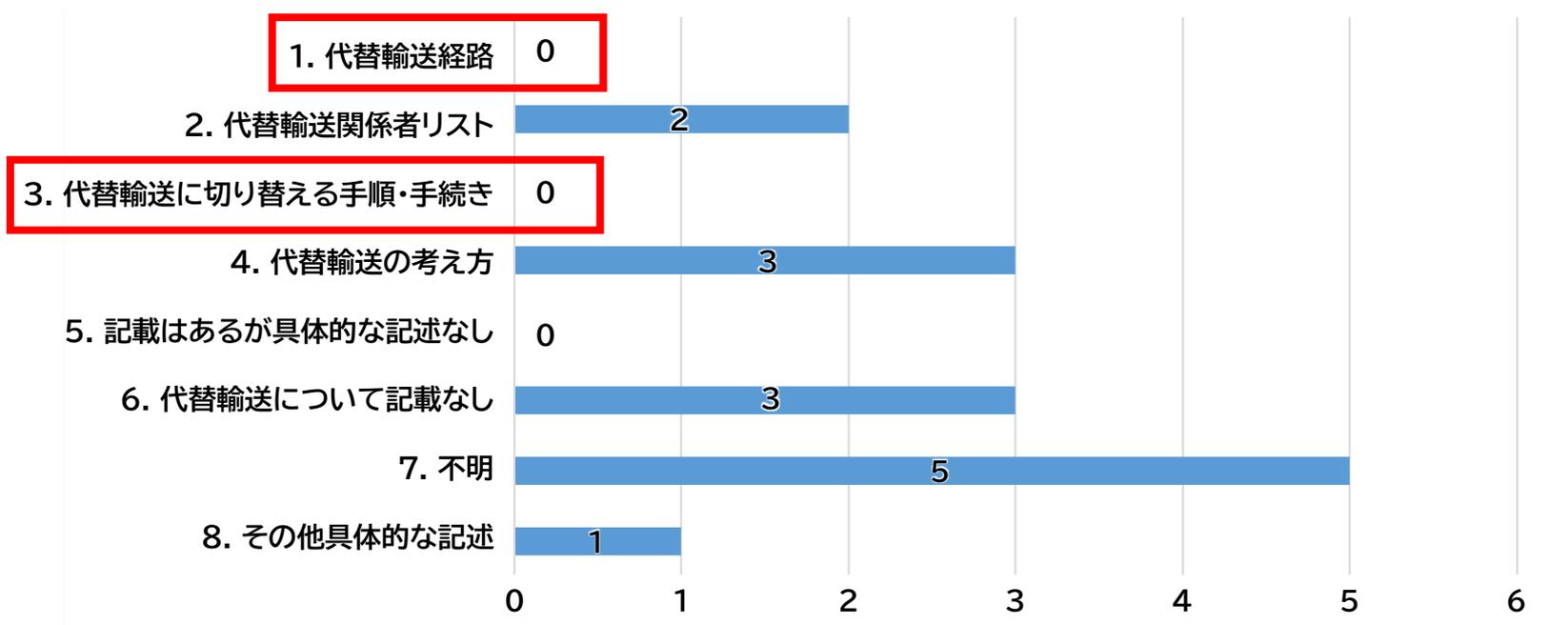


## 2 アンケート結果（内航）

### ◆代替輸送に関して

(7) 貴社の事業継続計画(BCP)に記載されている代替輸送の内容について教えてください。  
(複数回答)

- 代替輸送に関してBCPに記載がある一方で、「代替輸送経路」や「手順・手続き」等については、記載内容が若干手薄になっている傾向が伺える。

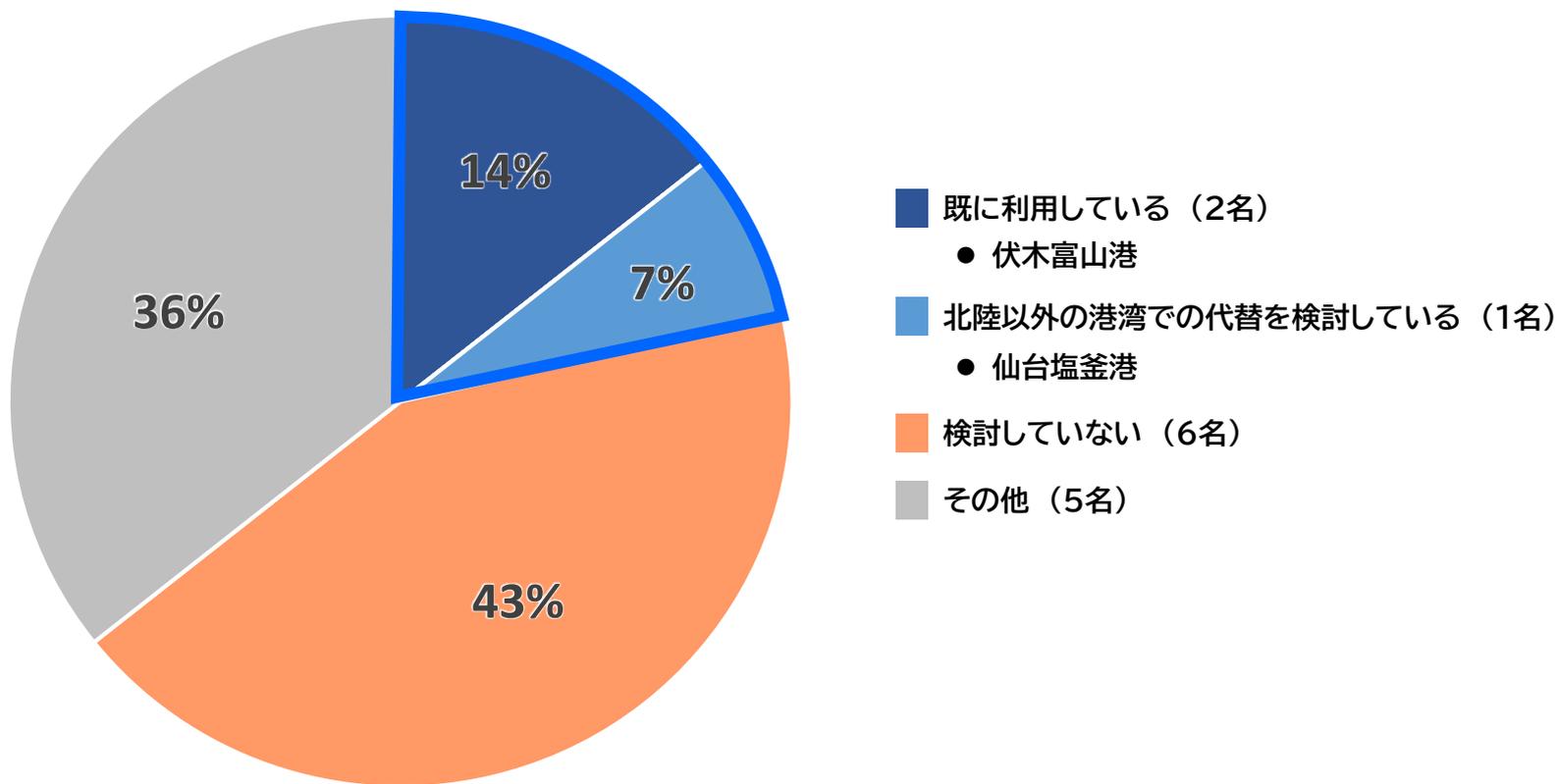


## 2 アンケート結果（内航）

### ◆今後に関して

(9) 災害発生時に備えて、北陸の港湾を利用することを想定していますか。（複数回答）

- 既に北陸港湾を利用している企業は14%である。
- 災害発生時の物流手段として、港湾を想定している企業は21%であり、それ以外の企業は港湾を利用する必要性を見出せていない又は、代替輸送を検討していないことが伺える。（外資と比較し低い傾向）



## 2 アンケート結果（内航）

### ◆今後に関して

(10) 今回の訓練・ワークショップを受けて、訓練の運営方法および次年度以降の訓練テーマ等についてご提案や改善点、その他ご感想がありましたらご記載ください。

- 運営方法については好評な回答が得られたが、今後、参加者、参加企業の拡大を図る必要があるといった回答も得られた。

No.	提案・改善点・感想
●提案	
1	次回は実例として被災地の企業で行われた話や映像紹介などがあるとより良いものになると期待しています。
2	ロールプレイングのケースをいくつか増やしたり時間を長くとっていただいても良いかと感じました。
3	物流会社以外でも物流BCPに触れたのが初めての方が多く様子であったので、参加企業の範囲を広くすべきと思った。
4	議論には物流会社が各テーブルにいると良いと思います。
●感想	
5	普段業務に関わりのないBCPについて楽しみながら学ぶことができました。
6	物流や海運について全くの素人でしたので、大変勉強になりました。

## 2 討議結果（内航）

### (1) 第一部 ワークショップ

#### ■意見交換 各社の国内輸送に関する物流BCPの現状認識

- 全社一丸となってBCPに取り組む体制・連携が取れていないという回答があり、物流BCPの認識はあるものの、実行上の課題があることが伺える。

No.	課題と解決策	
● 社内の運用に関する課題		
1	【課題】	他部署や他拠点の物流会社との連携が取れない。
	【解決策】	他部署との調整、業者への説明が必要。
2	【課題】	BCPの取組みや計画を作るにあたり、部署ごとに温度差があり、積極性も違う。
	【解決策】	経営陣を含めて社内の意識の徹底が必要。
3	【課題】	BCPが社内に共有されていない。複線化などの検討がされていない。
	【解決策】	経営層も含めてBCPを社内に広く共有していくことが大事。
● BCP運用上の課題		
4	【課題】	優先貨物の決め方が分からない。
	【解決策】	ガイドラインの作成が必要。
5	【課題】	実際の被害を想定した代替ルートを想定した訓練ができていない。
	【解決策】	代替ルートを想定することを日頃からあらかじめ検討しておく。
6	【課題】	災害発生時のトラックや船舶の燃料補給、通信手段の確保や情報の入手。
	【解決策】	事前にホームページなどで必要な情報を取得しておく。
● 2024年問題に関する課題		
7	【課題】	2024年問題に関連してトラックドライバーの不足。
	【解決策】	物流に携わっている人々の社会的な地位の向上が必要。共同配送など、より効率的な物流の実現。

## 2 内航代替輸送訓練・ワークショップに関する考察

### (1) 内航代替輸送訓練・ワークショップのアンケート結果と討議結果に基づく考察

#### ① アンケートを通して抽出された課題

- 参加者の所属先のBCPについて、代替輸送に関して記載があっても、「代替輸送経路」や「手順・手続き」等については、記載内容が若干手薄(P23)
- 本訓練の有用性を踏まえた継続的な取組(P21、22、25)

#### ② 討議を通して抽出された物流における課題

- BCPが社内で共有されていないなどといった社内運用に関する課題(P26)
- 実際の被害を想定した代替ルートを想定した訓練ができていないといったBCP運用上の課題(P26)
- 物流2024年問題に関する課題(P26)

## 2. 報告内容 (3) 今後の展開に向けて

# 1 これまでの取組みを踏まえた今後の方針案

今後の方針案を踏まえた取組みは以下の通りである。次ページ以降で具体的な取組みを記載する。

1

企業における物流BCP作成支援

2

物流BCPの重要性認知向上（PR）

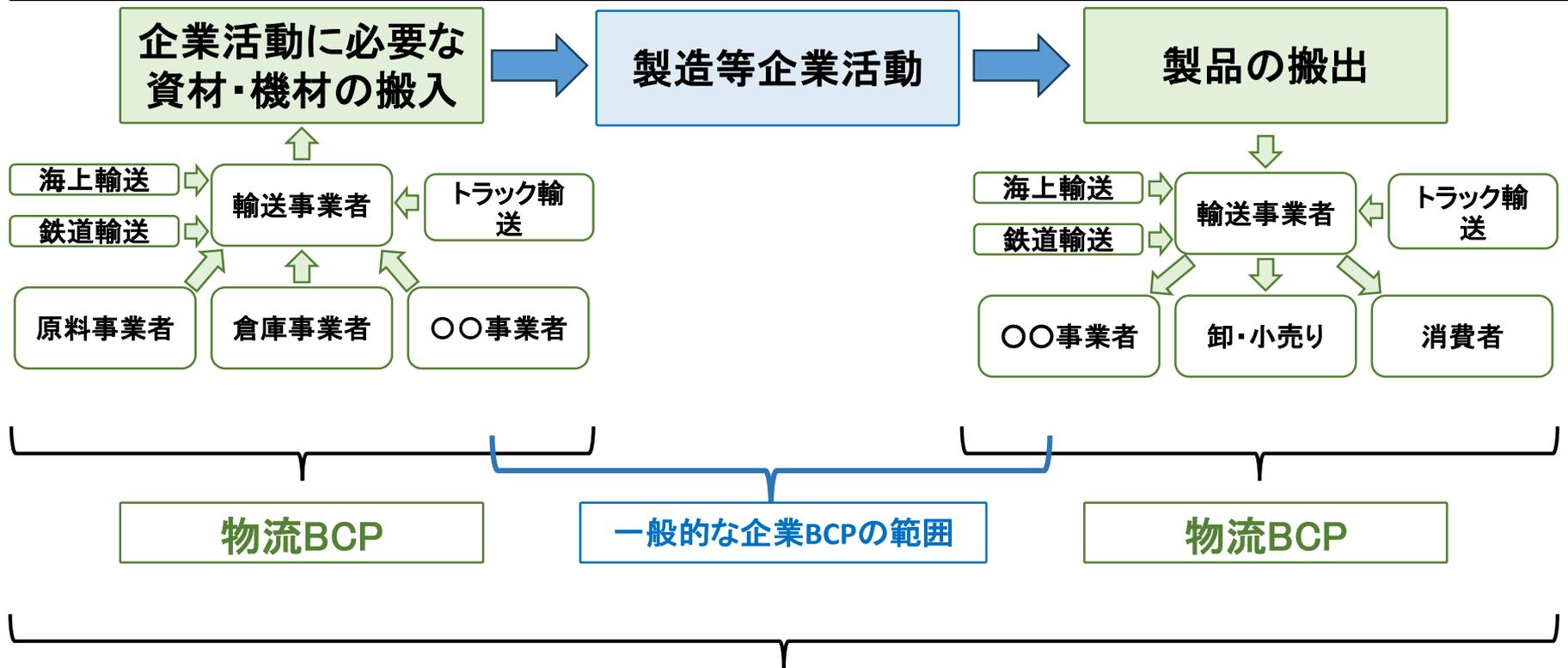
3

代替輸送訓練の継続的な実施

# 2 「企業における物流BCP作成支援」に向けた具体的な取組み

## (1) 「物流BCP」の概念整理

企業活動は通常、資機材等の搬入と製品等の搬出があり、そのいずれにおいても様々な物流手段・ルートを経るが、ここでは災害等の非常事態においても「物流を止めない」との観点から、この物流手段・ルートの代替を想定する状態を「物流BCP」とした。



あるべき企業BCP

図：物流BCPの概念図

# 2 「企業における物流BCP作成支援」に向けた具体的な取組み

## (2) 「物流BCP作成支援のチェックリスト(仮称)」の作成

BCPに記載されるべき内容の漏れを防ぐための代替輸送手引書に付随する「物流BCP作成支援のチェックリスト(仮称)」等を作成する。

- 事前に確認しておくべきことを一つ一つ列挙する。  (チェック)箇所

項目	行動内容	分類	情報入手先の詳細	入手する情報
代替輸送	<input checked="" type="checkbox"/> 代替輸送ルート	<input checked="" type="checkbox"/> 利用港湾の情報	<input checked="" type="checkbox"/> 港湾管理者の連絡先	港湾の被災状況、船舶の運航状況
			<input type="checkbox"/> 税関の連絡先	取扱可能貨物
			<input type="checkbox"/> 検疫所の連絡先	取扱可能貨物
			<input type="checkbox"/> 港湾運送事業者の連絡先	貨物の受入可否
			<input type="checkbox"/> 船会社の連絡先	仕向け地までの船荷証券に関する事項
			<input type="checkbox"/> 運送事業者の連絡先	工場から港湾までの輸送可否
			⋮	
		<input type="checkbox"/> 輸送ルートの情報	<input type="checkbox"/> 道路情報の入手先A	道路の通行可否、所要時間
			<input type="checkbox"/> 道路情報の入手先B	
			<input type="checkbox"/> 道路情報の入手先C	

図：物流BCP作成支援のチェックリスト(仮称)のイメージ(案)

### 3 「物流BCPの重要性認知向上（PR）」に向けた具体的な取組み

#### (1) 本取組みの重要性を広く効率的に周知

本取組みの重要性を広く効率的に周知するために、以下の3点を実施する。

##### ◆セミナー・シンポジウムの実施

- 平成25年から継続してきた代替輸送訓練をテーマとしたセミナー・シンポジウムを実施し、より多くの層に本取組みを周知する。
  - 代替輸送をテーマとしたパネルディスカッション
  - 太平洋側の被災時における北陸港湾の有用性についての討論会 など

##### ◆業界団体との連携

- 平成25年から継続してきた代替輸送訓練について、業界団体と連携し本取組みを進める。
  - 日本経済団体連合会、後援団体 など

##### ◆学会での発表・論文投稿の実施

- 平成25年から継続してきた代替輸送訓練の取組みの発表や論文投稿を実施し、より多くの層に本取組みを周知する。
  - 沿岸域学会、土木学会 など

## 4 「代替輸送訓練の継続的な実施」に向けた取組み

### (1) 参加者、参加企業の拡大

本取組みの有用性を踏まえ、参加者、参加企業の拡大を図るべく、以下を実施する。

#### ◆研修プログラムとしての採用

- 本訓練を業界団体等の研修プログラムとして採用してもらえるよう働きかけを行う。
  - 事業継続推進機構(事業継続資格制度に関する教育プログラム)など

## ◆企業における物流BCP作成支援

- 物流BCPに必要な項目の整理を行い、「物流BCP作成支援のチェックリスト（仮称）」等を作成する。

## ◆物流BCPの重要性認知向上（PR）

- 荷主企業へのセミナー・シンポジウムの実現に向けた検討を行う。
- 日本経済団体連合会や後援団体等のBCPに関心の高い団体との連携を図れる取組みについて検討を行う。
- 沿岸域学会や土木学会等での発表、論文投稿の実現に向けた検討を行う。

## ◆代替輸送訓練の継続的な実施

- 対面形式での開催とし、今年度の訓練で抽出された「BCPの運用」や「物流2024年問題」等に関する課題を踏まえ、荷主企業や関係者と広域バックアップ専門部会が協同して代替輸送訓練を実施する。
- 研修プログラムへの採用の実現に向けた検討を行う。